

2007年2月16日

## データセンターにおける運用サーバ台数が 10,000 台突破 2007年度目標を 1 年前倒して達成

株式会社日立情報システムズ（執行役社長：原巖、本社：東京都品川区大崎、以下「日立情報」）では、中核事業のアウトソーシング事業において、データセンターにおける運用サーバ台数がこの度 10,000 台を突破しました。

日立情報は、2001年10月の株式会社日立情報ネットワーク、2004年4月の日立ネットビジネス株式会社との合併により、日立グループ内のデータセンター型アウトソーシング事業を当社に集約し、日立アウトソーシングサービスの中核企業として積極的に事業展開してきました。その結果、当初の目標（2007年度中に 10000 台突破）を 1 年前倒して達成しました。2002年度から 2006年度までの 4 年間で、サーバ台数は約 4.4 倍、年平均成長率は 40%以上と成長しています。

日立情報では、全国 19 箇所に配置されたデータセンターを駆使し、金融・流通・製造・自治体等の幅広い業種に、多種多様なアウトソーシングサービスを提供しています。サービスメニューには、「ハウジングサービス」、「ホスティングサービス」、「ASP サービス」、「遠隔マネジドサービス」、「アプリケーション運用サービス」があり、特に「遠隔マネジドサービス」と「アプリケーション運用サービス」により、お客様業務のミッションクリティカルな業務プロセスをワンストップでサポートできる点が大きな特長です。

これらの高品質なサービスをお客様に提供するために、日立情報では、「サービスレベル管理」「インシデント管理」「構成管理」「変更管理」等、ITIL（注 1）に準拠した高水準なサービスマネジメント基盤の整備・強化を推進しています。その一環として、アウトソーシングサービス品質の高位平準化と高効率運用の実現を目的に、全国複数センターの運用業務を一箇所で統括管理・制御する「統括コントロールセンター」を本年 1 月に新設し、データセンターの無人化に向けたセンター仮想統合運用を開始しました。

また、ITMS の国際規格「ISO/IEC 20000」（注 2）および ISMS の国際規格「ISO/IEC 27001」（注 3）の認証を昨年 12 月に取得し、より高信頼で高品質なサービスを提供する基盤を強化しました。

今後は、アウトソーシングサービスの領域を AMO（Application Management Outsourcing）や BPO（Business Process Outsourcing）に拡大するとともに、データセンターの信頼性・効率化・省エネ化をより一層推進します。また、センターの仮想統合と仮想化技術（VM 技術）によるリソース最適化により、大量のサーバを高品質・効率的に運用できる技術力を確立し、中期経営計画に基づく「プール化構想」（注 4）の実現に向けた取り組みを加速するとともに、2010 年度までには運用サーバ台数 20,000 台突破を図り、中期経営計画達成の成長ドライバーとしての事業拡大をめざします。

以上

(注1)ITIL

IT Infrastructure Library の略語であり、英国政府機関が作成した IT サービスマネジメントのベストプラクティスを集めたフレームワーク

(注2)ISO/IEC 20000:2005

IT サービスマネジメントのベストプラクティスとして注目されている ITIL をベースとした IT サービスマネジメントシステム認証の国際規格

(注3)ISO/IEC 27001:2005

情報セキュリティマネジメントの要求事項として、BS7799-2 を母体に制定した情報セキュリティマネジメントシステム認証の国際規格

(注4)プール化構想

当社データセンターサービス事業の将来コンセプトの一つであり、お客様に「必要なときに」「必要なソリューション」(オンデマンドサービス)を提供するために、リソースを仮想化(プール化)しリーズナブルなサービスを実現する構想